



医師会だより

Vol. 11
2010.11.14

発行/ (株)大村市医師会
大村市協和町779番地
TEL 0957-54-0151
FAX 0957-54-3646
印刷: (株)つじ印刷

皆さんは、子宮頸がん予防ワクチンについてご存知でしょうか？
子宮頸がん予防ワクチンは、海外では既に100カ国以上で接種され、月より一般医療機関でも接種できるようになりました。今回は、子宮頸がんワクチンについて説明したいと思います。

1 子宮がんについて

子宮がんには、子宮の入り口（子宮頸部）にできる子宮頸がん（子宮の内側（子宮内膜）にできる子宮体がんの2種類に分類されます。この2種類のがんは、原因や発症年齢、特徴、治療法が異なるため、同じ子宮にできるがんで異なる性質のものと云えます。

3 子宮頸がんの原因

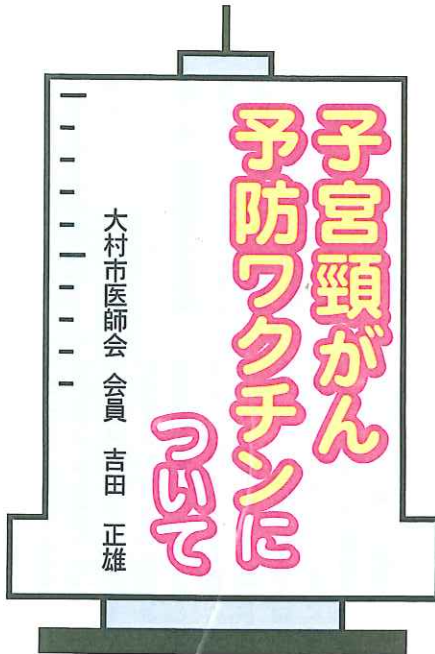
子宮頸がんは、どうやって発症するのでしょうか？
1983年、Harald zur Hausen

子宮頸がんは、日本では初期がんも含めると年間約15000人が発症し、約3500人が亡くなっています。以前は40〜50歳代に多いがんでしたが、最近では20歳代後半から30歳代前半の若い女性に急増しています。この年代では女性のがんの中では最も発症率の高いがんと考えられています。

2 子宮頸がんの症状

子宮頸がんは、初期には自覚

症状が無いことがほとんどです。従って、気づかない間に進行し、出血や臭いのあるおりもの、性交時の出血で初めてがんにかかっていたと分かることがあります。



決して特別な人が感染するのではなく、性交渉の経験がある人なら誰でもHPVに感染する可能性があります。しかし、HPVに感染しても多くの場合は免疫力が働きウイルスは自然に排除されます。しかし、中には排除されないまま長い間感染が持続すると数年から十数年かけて前がん病変（がんになる前の異常な細胞）となり最終的に子宮頸がんへと進行していきます。また、HPVに自然感染す

感染を予防するワクチンです。ワクチン接種によりこれらの発がん性ウイルスに対する抗体を作り感染を防ぐことで、子宮頸がんの発症を予防することができます。

5 子宮頸がんワクチン 接種対象者と接種回数

先にも述べたように、HPVは性交により感染するため、理想的には性体験前の若い女性に接種するのが最も効果的です。従って、多くの国では、優先接種対象者は10〜15歳の女子とされています。

7 どこで接種すればいいの？

子宮頸がん予防ワクチンは、産婦人科だけでなく、一般内科や小児科でも接種可能です。接種を希望される方は、お近くの医療機関もしくは医師会事務局へお問い合わせ下さい。

6 子宮がん検診の勧め

現在の子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの原因の多くを占めるHPV 16型及び18型の感染を防ぐことができますが、全ての発がん性HPVの感染を防ぐことはできません。また、既にウイルスに感染している場合はウイルスを排除できませんし、既にがんにかかっている場合の治療効果もありません。また、一度ワクチンを接種したか

4 子宮頸がん予防ワクチンについて

現時点で日本において接種できる子宮頸がん予防ワクチンは、発がん性HPV（ハイリスク型）の中でも高率にがんを引き起こすHPV 16型及び18型の

ます。このうち、子宮頸がんを引き起こす発がん性のある危険なウイルス（ハイリスク型）は15種類ほどありますが、その中でも16型と18型が20〜30歳代の子宮頸がんの約70〜80%を占めていることが分かっています。では、どうやってこのHPVに感染するのでしょうか？
このHPVは性交によって感染し、ほとんどの女性が生涯に1回は感染するといわれているほどごくありふれたウイルスで

教授（ドイツ）が、子宮頸がんはウイルス感染によって引き起こされることを発見（この功績により2008年のノーベル生理学医学賞を受賞）しました。（Human Papilloma Virus…以下HPVと略します）という、手のひらや指などにはいぼを作るごくありふれたウイルスだったのです。現在このウイルスは、約100種類以上発見されています

休日に、子宮がん検診が受けられます

第1日曜日、市内の当番産婦人科にて実施中です。
当番の医療機関については、お近くの産婦人科または大村市医師会事務局にお尋ね下さい。



パンデミック対策委員会
委員長 朝長 昭光

今年のインフルエンザワクチン

今年のインフルエンザワクチンには、昨年流行したA型（豚型H1N1）に加えてA香港型（H3N2）とB型の3種類のウイルスに対するワクチンが入っています。

昨年は季節型と新型の2種類のインフルエンザに対する予防接種が行われました。季節型ワクチンには、A型（ソ連型と香港型の2種）とB型の計3種類が入っていました。つまり、今年のワクチンはソ連型がなくなり、新型のワクチンが新しく入ってきたということです。また、昨年10月より緊急に行われた新型インフルエンザワクチン接種は、医療従事者、持病を持った人などを優先的に接種対象者となりましたが、今回は優先順位が決まっていますが、今回は、誰でもすぐに受けることが出来ます。

子ども(13歳未満)は2回接種が必要なので、また受けていない方は早めにかかりつけ医にご相談下さい。ワクチンの知識として大事なことは、ワクチンは体の免疫力を高めてかかってもひどくならないようにするものということです。重症者、死

亡者を減らすのが大きな目的です。ワクチンさえ打つていればインフルエンザにかからないと言っている間違って、ワクチン接種を受けていてもうがいと手洗いは忘れないうようにして下さい。



今年インフルエンザはやるの??

昨年は1968年の香港型流行の後約40年ぶりに新型が世界的に流行しました。メキシコに端を発し、5月には日本にも上陸、この大村市でも7月26日に第1例目を確認されました。新型インフルエンザの対応で日本中の医療体制が一時大混乱になりましたが、次第に、重症化することとは少ないことが分かり、従来の季節型インフルエンザに準じた体制で治療が進められ、大村市でも今年3月にはほとんど消えています。

外国との比較では日本での死亡率の低さが注目されています。人口100万あたりの死亡率は日本：0.2、米国：3.3、オーストラリア：8.6、アルゼンチン：14.6と、日本の死亡率と比べて低かったです。その理由は、皆さんが病院にキチンとかかったこと、タミフルなどの治療がきちんに行われたこと、学級閉鎖などの取り組み、そして手洗い、マスクの実行が良く守られたことなどと言われています。

専門家の間で今年ほどの型のインフルエンザが流行するか議論されています。世界のインフルエンザ発生



最新状況では、A新型とA香港型、B型の3種類の流行が確認され、Aソ連型は確認されていません。8月上旬までは新型が多く、下旬からは香港型が優位となっています。大村でも8月に新型が数人確認され、9月からは香港型が見られています

が、流行にはなっていないです。海外旅行者が多いために、外国から持ち込まれるケースも増えているようです。新型の場合には特に子供が問題とされ、香港型の場合は高齢者に注意が必要です。今年香港型が流行して行くこと私たちは予想しています。が、実際はどうなるかは専門家でも分かりません。

ここ大村では、市医師会の医療機関にインフルエンザで受診されると翌日昼には集計され、対策を講じる体制が引かれており、また、大村市医師会を中心に、歯科医師会、薬剤師会、葉卸業、市民病院、医療センター、大村市、県保健所が協同して定期的にパンデミック対策協議会を開き、流行時にすぐ対応できるようにしております。

これからのインフルエンザ流行時期に備えて、ワクチンの接種、うがい・手洗いの励行を。もしも熱が出た時には早めにかかりつけ医に受診を。皆さん、一人一人の努力でインフルエンザの流行を小さく抑えましょう!!

大村市医師会 市民公開講座について

大村市医師会広報委員会委員長 渡邊 敬

今回は大村市医師会が主催しています市民公開講座についてお話ししたいと思います。「地域の医師会は住民から信頼されるためには開かれたものでなければならぬ」という考えのもとに市民公開の講演会を行う様になったのは平成十四年度からで、今回で十七回を数えます。原則として年二回、医療に限らず様々な分野から多彩な講師をお招きしています。

今まで行われた十七回の講座のうち八回が医師によるもので、専門の先生を講師に「家庭における性教育」、「青少年スポーツ障害の予防とリハビリ」、「腸がつくり出す病氣」、「健康に役立つ食生活」、「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防と対策」、「小児の医療を考える」、「高血圧はなぜ怖いのか、どう対処するか」、「国境なき医師団の現場で見たもの」の演題をわかりやすく楽しく解説していただいています。

医師以外の講師によるお話を挙げますと、和田臨床心理士の「元気の出てくる心理学」、サッカーの小嶺総監督の「育てる」、斎藤学先生の「子供と向き合う家族の力」、吉田俊道先生の「食の安全から食の生命力へ」、禅心寺の金子師の「生と死を見つめて」、ハウステンボス総料理長上柿元シエフの「私とフランス料理」、清峰高校の吉田監督の「チームワークが生む無限のエネルギー」、歴史学者の久田松和則博士の「幕末の光と影」時代に翻弄された「少年・長井岩雄」となります。これらはいずれも聞いて面白く、ためになるお話でした。

最近では九月三十日(木)に(株)食品と暮らしとの安全 代表取締役 小若順一氏を講師として招き「ミネラル不足の食事 食べなきゃ危険」と題して講演をしていただきました。現代のコンビニ弁当、外食、宅配弁当、レトルト食品などを調べてみると、ほとんどが主要ミネラルのカルシウム、マグネシウム、微量ミネラルの鉄、亜鉛、銅が相当不足している。これらの食事を続けていけば健康を損なう可能性が高い。食材の加工によってミネラルが抜かれたり、賦形剤として添加されるリン酸塩にミネラルが吸収されてしまうことも大きな問題だ。などと次々と衝撃的な事実が明らかにされました。見かけだけのバランス食では駄目だということです。また、アスペルガー症候群と診断されている小学生に不足しているミネラルを補給したところ治癒に至った例も示されました。最後は無添加白だしによる実演もあり盛況のうちに講演が終わりました。

講座のあとには毎回アンケートをとっていますが、参加者の皆様は実によく話を理解しておられ、「大変なためになった、明日から今日の話を生かしていこう」などと感想を述べておられます。主催者として嬉しい限りです。これからも企画を練って市民の皆様とともに講演会を続けていきたいと思っておりますので、多数の方々お気軽に参加してくださいませようお願いします。

大村看護高等専修学校
平成23年度 入学試験案内

【試験日】平成23年1月8日(土)
【出願期間】平成22年12月22日(水)

①郵送の場合必着:平成23年1月5日(水)
②持参の場合のみ受付:平成23年1月6日(木)
【合格発表】平成23年1月14日(金)10時

【受験資格】
高等学校入学資格を有する者
(中学校卒業以上の者)

【試験科目】
国語・数学・作文・面接・適正能力試験
(簡単な作業)・書類審査

☎(0957)52-6712

編集後記 編集員 南野 淳

久々の発行となりました。今回の医師会便りは近年様々なワクチンが開発され、特に注目を集めている子宮頸癌ワクチン。昨年度猛威をふるったインフルエンザの本年度の対応、これまで医師会が行ってきた市民公開講座の3点を取り上げました。インフルエンザについては昨年より大村市医師会として各会員から発生状況を集めて、より早く正確な情報で効果的な対策が打てるようになりました。うがい、手洗いなど個々の感染対策も大事ですがより重症化を防ぐためにワクチン接種を検討ください。子宮頸癌は現在ワクチンにより予防できる唯の癌とも言われています。感染機会が低年齢化や結婚年齢の高齢化など、ちょうど結婚してまもなく癌が...といった悲劇が増える事が予想され若く女性の癌対策としては今後重要になると思われまます。また高血圧や糖尿病の予防も重要なポイントです。併せて女性特有の癌検診もお忘れなく。市民公開講座はこれからも市民のためになるテーマを選挙する予定です。また大村市医師会までお気軽にご連絡ください。